

---

# 魔法少女リリカルなのは～妹を守りたいだけの転生者の物語～

鬼畜な人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜妹を守りたいだけの転生者の物語〜

### 【Nコード】

N0037BA

### 【作者名】

鬼畜な人

### 【あらすじ】

どうしてこうなった？俺は普通に家で暮らしてたらいつの間にか  
圧迫死していた

そしたら神主催のゲームに巻き込まれることになった

主人公は生き残れるのだろうか

そしてシリアスな・・・？シリアルっぽい雰囲気の流れる中  
普通の生活を送れるのだろうか

これはシスコンの平凡な日常？だと・・・思う

番外編は主人公以外の転生者がメインの話になっています

## 第一話 始まり始まりい（前書き）

はい 作者です

結構まじめに書いたつもりです

駄文を見たくない方はブラウザバックしてくださいね！

## 第一話 始まり始まり

俺は柴崎神治 普通の高校生だ

まあ、それはさっきまでの話だけだな

〈回想〉

「やることねーなあ・・・面白い事おこんねーかな・・・」

毎日、学校行つて 家に帰ったらすぐ自分の部屋で

小説サイトや某動画サイトを巡回している

日常だが・・・平凡すぎてつまらないと思う時もある

まあその時言つた言葉が問題だったのかな

「もしも神様がいたらな・・・俺に面白い事をさせてくれ！」

そしたら声が聞こえてきた・・・

自分が考えてもいないのに頭の中から

《汝の願い、聞きとげた まあ我も暇をしたところだな

面白い事させてやるからさっさと 死 ね》

「えっ？」

そう思つた瞬間だった

「キキッー!!!」

ぐじゃっ

聞きたくない音が走つた

何が・・・起こつたんだ・・・？

隣で俺がトラックに押しつぶされている

かなりスプラッターな光景だ  
いつもの俺なら卒倒してるだろうな

現に今 吐きそうになっているのだから

「すぐく吐き気がするのに、吐けないのは何でだ!？」

そして何故俺がトラックに押しつぶされている!？」

また謎の声が聞こえてきた

《ふむ、混乱してるようだな 自分で望んで来たと言うのに》

はい?面白い事を望みと取りやがったのか・・・こいつ

《神に向かつてこいつか・・・まあ我の存在を知らないんだからし  
ようがないか》

か・・・み?どういうことだ?まずこの頭?に聞こえてくる声は何だ?

考えてもしょうがないので 頭の中に聞こえてくる声に

質問してみることにした

(俺は・・・死んだのか?)

相手の返答を待つ

《自らここに来る事を望んで何を言う》

面白い事を望んでいると思っでここにつれてきたのか・・・

ん?ようするにこいつが殺したのか!俺を!

《そう言うな 我も暇なのだから面白いゲームに

参加させてやるうじやないか》

ゲーム・・・?

《まあそうだな 転生者どうしの争いと言った所か》

転生?つまりどういうことだ?輪廻転生じゃなく

転生なのか?二次小説とかでよくある前世の記憶を持ったまま

転生ってやつか?・・・面白そうだな

ん?争いつていったか・・・?

《殺し合いだ しなくてもいいが優勝商品は

神の座だ 我もちよつと疲れてな 休憩がしたいのだよ

まあ結局巻き込まれると思うがな 最後の一人までなのだからな

ちなみに転生は拒否できないぞ 強制だからな》

殺し合い・・・だ・・・と？

そんな事できるわけが・・・

《どんなことを言ったって他の奴は了承したんだ（強制だがな）

しょうがないだろう だからどうせ巻き込まれるって言っただろう》

ついでに言うが特典はあるのか？

《ふむ 特典は最初一つだけだが 転生者を殺したら

あげるぞ ちなみに最大は三つまでだ

・・・ニコポなんて要求した馬鹿がいたがな》

・・・殺し合いにニコポなんて持ってたら戦えず真っ先に死にそう  
だな

《ちなみにリリカルなのはの世界だ》

なん・・・だ・・・と!？

俺の大好きなアニメじゃないか!

・・・ん・・・じゃあ 俺も原作介入することになるんだな・・・

《後言っておくがお前が住んでた世界の500年前に分岐した世界  
だよ》

え?IFの世界か・・・イレギュラーとかがいっぱいいるんだろう  
な・・・

それと特典が・・・どうしようかな

Fateのヘラクレスの力にしようかな!そうしよう!

《ゴットハンドは無理だぞ お前は何回も死を覆してないからな》

まじかー・・・

あれ でも戦闘技術とかは・・・

《ないぞ 自力で訓練しろ

じゃあ行ってもらおうぞ せいぜい我を楽しませてくれよ》

床に突然穴ができ そのまま俺は落ちて行き 意識を手放した

〈回想終了〉

まあこんなわけだ

今真っ暗で息苦しい

なんか声が聞こえる なんの話をしているんだろう

「 ! !も ちょ よ!」

ん?

なんか頭が痛いぞ

締め付けられて・・・痛い痛い痛い

「オギヤアアアアアア (え? 赤ちゃんから? マジで?)」





第二話 ……あれ？（前書き）

どうしてこうなった？

……うーむ

第二話・・・あれ？

やあ 柴崎神治だ

現在2歳だ

2年前は本当に大変だった！

いきなり赤ちゃんになって驚いた

それだけは言っておこう

そしてすごく母乳を飲むとき恥ずかしかった

《ふむ 新しい生活を楽しんでるようだな》

貴様は、神！？

《ルールを教えるのを忘れていてな

お前の場所を探すのに苦労したぞ》

ル・・・ル？

《まあ、記憶にルールを刷り込んで置くから勝手に見とけて  
ていっつか見なかったら死ぬと思え》

・・・痛っ痛い痛いってええええええええええ

頭がめちゃくちゃガンガンする

1分ぐらいしてようやくおさまった・・・

ふむ・・・これがルールか

ルールその1

結界を張って戦え 被害が出たら我が勝手に口座から  
金引いて修理するからな

・・・あつれー？神様っていい人？・・・いやめんどくさいだけか

ルールその2

転生者とばれるな

ちなみにはれたら記憶破壊を行う

まじかー

ルールその3

我にゲームから退場したいといえれば人生から退場させてやる

・・・ええー

以下略

まあこんなとこだ  
てか・・・なんで海鳴市なんだ・・・  
神が仕組んだのか！？そうなのか！？  
やっぱり強制なのか！？運命なのか！？  
・・・そっういや転生者は何人いるんだろうか・・・  
後名前は前世と同じだ 多分・・・神が仕組んだのだろう

それから何事も？なく3年経過

それと良い事があった！

妹が生まれたあああああ すんげーかわいい！

妹の名前は水都みとだ うん 良い名前だ！

・・・悪い知らせは 親が行方不明だ 妹が生まれてから消えた

まあいいや！妹さえ可愛ければ！



第二話・・・あれ？（後書き）

主人公がシスコンになってしまった・・・

**第三話 動き出す物語（前書き）**

あーあー何も聞こえないー

そろそろ無印開始です

### 第三話 動き出す物語

やあ またあてて

《よう 久しぶりだな》

「またお前か」

《お前とは何だお前とは 神（様）と呼べ！》

いつのまにか神が毎日のように来るようになった  
すぐくうつとしい……

《うつとしいとは何だ！うつとしいとは！》

「いやさ……うつとしいものはうつとしいんだよ……」

「お兄ちゃん……誰と話してるのお？」

「いやなんでもないよ！ああ可愛いなあ可愛いなあ」

おれは水都の頭を撫でる

「お兄ちゃん！恥ずかしいよ／＼」

《すごいシスコンっぷりだな！》

「誰がシスコンだあああああああああ……！」



「お兄ちゃん・・・怖い・・・」

「ああ、ごめんな・・・怖くない怖くない」

《・・・・・・・・》

こんな感じで神はすぐ帰っていく

何故だろうか・・・

てか他の転生者のサポートしなくていいんだろうか  
てか俺神の名前しらねえええええ

「じゃあ寝ようか お休みね 水都」

「お休み お兄ちゃん」

まあこんな感じで毎日が過ぎている  
結構楽しい日々だ

前世とは大違いだな

・・・あれ 何か忘れてるような・・・

??? side

「役者は整った 後は我が手の平を踊るだけ さあ  
始めようじゃないか プロジェクト・運命 を」

世界の異常者が生まれ 物語は大きく壊れ始める

??? side out

あ！思い出した！これバトルロワイヤルなんだっけ！

・・・思い出さなきゃよかった

ん・・・それじゃあ今なのは5歳だよな・・・

・・・もう誰かが介入を始めてそうだな

さて 俺はどうしようか

まあ！水都が可愛ければ問題ないな！うん！

《こいつ・・・シスコンか・・・妹が可愛いからって  
問題ないって・・・重病だ・・・》

神は 神治のいないところでは 神治を完全にシスコン扱いだった

しょうがないよね！

「ん・・・今なんか聞こえたような・・・気のせいかな？」

《怖っ・・・神が怖がっちゃ駄目だな さてと

他の転生者でもサポートにいくかな》

神の口調が結構変わったのは神治とかかわり始めてからだ  
完全に本人は自覚をしていない  
口調変わってるところとか

「どづしてこつなつた」

状況を簡単に説明する

1 スーパーに買い物のにでかけた

2 公園で男に絡まれている女の子を見つけた

3 「おいやめる」と一声掛けたが「MOBのくせに生意気なんだよ！」と言われた

4 あれもしかしてこいつ転生者？

5 「とりあえず・・・ボコるか」 今ここ

「俺に勝てると思ってんのか？」  
とちんぴら

「女の子が困ってるんだから助けるに決まってるだろう」  
と俺

「ふえええ？／／」  
と女の子

ん？今顔を赤くしたか？気のせいだ きつと

ここからは音声のみでお楽しみください

ボコツガスツドカガスツドゴツ  
バガツドスツガガツツドンツ  
バンバンドツガガガツドスツ

これぐらいやればいいだろう

「グハアツ  
とちんぴら

「やりすぎたか・・・？体中から血を・・・あれ・・・？  
あの女の子はどこだ？」

「ふええん・・・うええん・・・うええん」

「・・・やっぱりやりすぎだったか・・・  
とりあえず病院を・・・って こいつどうにかしないと！

「名前は何かな？」

「うええん・・・なま・・・え？なのはなの・・・」

「俺の名前は柴崎神治だよ  
そっいえばさっきなんで男に絡まれていたの？」

「なのは俺の嫁とかいつてたの・・・怖かったよ・・・」

あーやつぱオリ主ハーレムとか  
きどってるやつか・・・ああいうやつらは駆逐しないとな！

止めは・・・ここじゃ無理だよなー

「もう大丈夫だよ あの子は・・・うん もうこないとと思うよ？」

「そう・・・なの？」

「そういえば・・・さっきなんでないてたの？」

「ないてない！お父さんが・・・大怪我しちゃって・・・かまってる人いなくて・・・  
ひとりぼっちで・・・」

「もう大丈夫だよ 今度遊んでやるよ」

・・・俺の服で涙拭くな

まあ仕方ないか

・・・あれ？なのは顔が赤い気が・・・気のせいだよな！うん

この光景を見てるものが居た

神だ

《・・・なんだかんだでフラグ建ててる気がするんだが気のせいなのかな・・・》



先生が困りはてていた



### 第三話 動き出す物語（後書き）

・・・1年生の勉強だから寝ても仕方ないよね！

## 無印 開始時の設定(更新1月2日)

名前 柴崎神治

年齢 9歳(原作開始時)

身長(原作開始時) 142cm

容姿 黒髪のただのイケメン 短髪

他のアニメのキャラで言うとISの一夏に似ている  
基本的にGパンにTシャツ一枚

能力 Fateのヘラクレスの力(ゴットハンドは使えない)

1tぐらいのものなら両手で持てる(まだ片手では上げれない  
リミッターのようなものがかかっている)

体力は・・・100km走ったら疲れ始めるぐらい

魔力 AA

デバイス 氷霧 バリアジャケットは迷彩服

魔弾拡散型タイプと神治はよんでいる

広域型とはまた訳が違うらしいが

補助具の見た目はSPAS12にLAWを小型化したようなのがく  
つついる

前世は高校生、親友がいたがテロにまきこまれ流れ弾にあたり

死んでしまい、それ以来友達はあまり作らないようにしている  
ちなみに、小説サイトにのめりこんだのはそれが理由

名前 柴崎水都

年齢 6歳（原作開始時）

身長（原作開始時） 113cm

容姿 水色の髪に青眼 ちよつと髪は長い

ちなみにお気に入りの服は白のワンピース

魔力 ?

自分のお兄ちゃんは何でもできると勘違いしている

第四話 デバ・・・イス？（前書き）

ついに無印開始一話前！

完走できるのだろうか

## 第四話 デバ・・・イス？

やあ またあつたな

柴崎神治d

《よう そろそろ殺し合いが始まるから デバイス渡しに来てやったぞ！》

「おい神、俺に挨拶させる！」

《かたいこと言うな》

「えー」

《まあ これがお前のデバイスだ 受け取れ》

「あいあいつとっ!?!」

神が受け取れと言ったその時

デバイス？っぽいのが突如目の前に現れて  
マジでびびった

「いきなり目の前に出すなよ！」

《知らん》

「ひでえ・・・」

《ちなみにデバイスの名前は氷霧だ》

「おう ありがたく受け取ったぞ」

《我は他の転生者にデバイス渡して来る 説明？ そのデバイスに聞け》

そのまま目の前の白い光は消えた

「・・・ペンダント型のデバイスか」

『マスター？聞こえますでしょうか』

「！？いきなり喋るな！ゲホッゲホッ」

ペンダントがいきなり喋り掛けてきたせいでもせた

「・・・ん？そついや魔力量ってどれくらいあるんだ？

まあどうせそんなにないんだろうけ・・・『AAですよ マスター』

「はあっ！？ちょっと多すぎじゃないか？それは」

まあ 魔力量は多くてもこしたことはないんだけど・・・

あ、それとだ 神埼とか言う奴が学校でなのはに絡み始めた  
完全に虫を見るような目で見てたけどな！

でも神埼は「恥ずかしいんだろう！」

とか言ってた どんだけ惚れてると勘違いしてるんだ？こいつは

とりあえずバニングスと月村となのはが友達になったから 安心だ  
なてかやつぱり神埼って転生者なのか？原作に絡み始めたら真っ先に  
殺しても・・・

「お兄ちゃんどうしたの？」

「いいや なんでもないよ 水都」

妹が可愛いからよしとしよう

まあそんなこんなで2年たった

ついに原作が始まる 殺し合いと一緒に

・・・とりあえずフェイト側につくか なのは側につくか・・・

よし！謎の男として登場しようかな

「お兄ちゃん・・・さっき男の子がでっかい動物に襲われている夢  
を見たんだけど・・・」

え？俺の妹って魔力あるのか？

「へえ 俺も見たよ」

「えっ？お兄ちゃんも見たの！？」

「ああ」

「へえ そうなんだあ ……何か隠してない？」

！？っ何故隠してるのがバレタ！？

「チーズケーキなら戸棚に……」

「いや……お兄ちゃん？そういうことじゃないよね？」

完全にバレテル……どうしよう

1 素直に白状する

2 嘘をつく

3 叩きのめす

……3は駄目だろう！？

即警察行きじゃねーか

よし！2だな！

「いやね 何も隠してないよ？」



「汗だらだらだよ？お兄ちゃん？」

「……言い逃れできねえ」

「じゃあ俺はジヨギング行って来る！じゃあなっ！」

「ちよっ お兄ちゃん！？待って!？」

よし 逃げれた！

「……どつやって家に帰ろう」

『素直に言えばいいんですよ マスター』

「水都に危険な事はさせたくないんだよ！」

『いや……マスター？言わなかったら余計に危険な事になるk』  
妹の為ならなんでもやる！「……』

『じゃあマスター 本当の事を話に行きましょうっね』

「しまったっ！」

とりあえず家の前についたわけだが

「……よし決心はついた！」

「実は俺 魔法使いなんだ」

「すごいっ！やっぱりおにいちゃんは何んでもできるんだね！」

「いや・・・なんでもできるわけじゃないんだが・・・」

妹は俺がなんでもできると勘違いしている

第四話 デバ・・・イス？（後書き）

・・・ん？

あいかわらずの駄文だ・・・

第五話 原作開始（前書き）

なんだろう ペースが上がってきた

ちよつと次の回から原作介入なので今すぐアニメ見直してきます

## 第五話 原作開始

やあ柴崎神治だ

今妹に魔法で何ができるのか？と聞かれている  
正直に言ってしまうと 1回しか使ったことがない

「お兄ちゃん、魔法って何ができるの？」  
・・・どうしよう

「空とか飛べるようになるんだよー」  
正直に答えた

「いいなー お兄ちゃん 私も魔法使える？」  
リンカーコアがないとなあ・・・

『使えますよ』と氷霧  
「えっ？」

まじで？リンカーコアあるの？

「本当！？あれ？今の声ってどこから・・・？」  
『ここですよ』

と俺のペンダントが光る

「ペンダントが喋ってる！？」  
とここで俺が口を開く

「ああ これはデバイスという補助具なんだ」

「デバイスって何？」

「えっと・・・つまりだな 魔法を使いやすくする道具だ」

「へええー・・・私にも頂戴！」

・・・どうしよう

神にもらったから無理という訳にも行かないし

第一ここで水都も原作に介入してしまうと

他の転生者に水都が転生者と勘違いされてしまう・・・どうにか

しないと

俺の妹が転生者に汚される！どうにかしないとな・・・

突然頭に頭痛が走る

《ようよう 久しぶりだな》

こんなときにめんどくさいやつが出てきやがった

(何のようだ？神、俺は妹がデバイスをほしがっててな、  
どうにかしないとイケないんだ さっさと帰れ)

《帰れとはひどいな お前の妹にデバイスを渡しに来たのに》

(すいません 神様 ありがとうございます)

《態度変わりすぎだぞ お前》

《まあとりあえず妹の服自体をデバイスにするからな》

(えっ?)

と思ったその時

水都が着ていた白いワンピースが光り そして・・・

『始めまして マイマスター』

「えっ？えっえ？何これええええええ！？」

完全に水都が混乱していた

「えつとだな・・・それがデバイスになった」

「えっ？どういうこと？」

そうだな・・・

「不思議な現象が起こり なぜか デバイスになった それだけだ  
セットアップって言って見た「セットアップ！」」

起動コード無しで・・・だ・・・と？  
魔力量結構多いのかな？

あれ・・・？まったく姿が変わってないぞ？

「お兄ちゃん、これでいいの？白のワンピースから姿変わってないんだけど・・・」

「お兄ちゃんにはまったくわかりません」と俺

まあ！ワンピース姿が可愛いからいいけど！

まあそんな会話してる時に、なのはが魔法少女になってたんだけどね

あと良い知らせなのかわからんが 【今日】【転校生】が来た

第五話 原作開始（後書き）

むづ……？

バトル回が近づいてきた……ぐっしょり……

戦闘描写はむづかしいけどがんばりますね



第六話 介入（前書き）

よし・・・駄文だな！

・・・駄目だこれー！

## 第六話 介入

やあ

柴崎神治だ

早速面倒事に巻き込まれている

なのはと談笑していたら  
転校生が「そんな男と喋ってないで俺と喋らないかい？」と八八八と笑いながら

言ってきた　なのはが・・・うん・・・引いてる

「おい、なのはが嫌がってるから黙れ」

キツとした鋭い目で殺気を当ててみるが  
ちよつとだけびっくりした表情になったがすぐに八八八と笑いながら  
後ろに下がっていった・・・が、問題がひとつ

転校生が笑うと　ほかの女の子は完全に頬を赤くしているのだ  
これはどういうことか？と思うと　十中八九　ニコポを選んだダメ  
な転生者だ

にしてもだ　心を操作するニコポはひどいと思う　なので俺はこい  
つを

第一優先抹殺対象とすることにした

・・・こいつが原作介入始めたら真つ先に俺は・・・言いたい事

はわかるよな？

まあそんなこんなでだ、現在月村家にいる  
勿論水都も一緒だ

「お兄ちゃん、ここ猫いっぱいいるねー」

「そうだな かわいいな」

と談笑してふと思う

あれ？ここ原作のあそこだよな？・・・やべえ

・・・そういやなのはと淫獣もいるな・・・  
ああこれは完全に終わったな

水都と俺がJS事件にかかわることになるな・・・  
水都を原作に関わらせたくなかったのに・・・

「そついえばお兄ちゃん、空の色変わったね」

「!?!?なんだと・・・?」

くそつ 逃げる暇もなかった  
結界張るのはえーぞ！淫獣め・・・

「お兄ちゃん・・・あの巨大な猫は何？」

「ああ、巨大だね」

「あっちにいったほうがいいのかな？」

「・・・俺が対処しないと駄目なのか？」

と喋っていると

「まあ・・・そうだね お兄ちゃん」

まあ俺が行く理由はフェイト側に

転生者が居るかどうかが気になるだけだけどな

「セットアップ！」

「お兄ちゃんかつこいいね！」

と水都

「水都は俺が守るからな！」

「うん！／＼／」

ん？顔を赤くしたか？

やっぱり気のせいだよな

家に入ってきた空き巣を素手で倒したぐらいじゃ  
フラグ建たないよね！・・・建てたくないけど

《完全に妹にフラグ建ててるよな?》

神はそう思っていた

神界 side

《ふむ・・・》

《ん?どうかしたのか?》

《いや、お前の性格が変わったと思ってな》

白い二つの光が喋っている

いや・・・

神々しい光と言っておこうか

まあ神々しいというか神なのだが・・・

《そうか?最近よくバトルロワイヤル参加者(強制)の所に行くけどな》

《あれ・・・?それルール違反じゃなかったか・・・?まあいい》

《それであるの計画はまだやっているのか?》

《もうちょっとで終わるよ あの手によってね》

《そ．．．そうか》

第97管理外世界《地球》に世界異常者が介入ワールドイレギュラーを始める  
神の手によって計画はただひとつの神以外には知られず  
動き始める．．．．．

神界 side out

## 第六話 介入（後書き）

なんか不穏な空気とシリアスな雰囲気が出てきた

気のせいだよな？

作者「ヒヤッハー！」

神治「テンション上がりすぎだぞ」

作者「やっと原作だ！」

神治「駄文だけだな」

作者「それを言わないで！」

・・・次回からは予約投稿にします  
書きだめが切れた・・・  
感想お待ちしております！

**番外編 転生者達の転生前(前書き)**

結構早い番外編です

メインストーリーにまだ出てないキャラも居ますけどね



番外編 転生者達の転生前

やあ 神だよ

今回は他の転生者達の動きを観察していくよ

転生者《連続》side

俺は、神埼 才斗だ

現在転生オリ主k t k r

ハーレムだ！ って考えてるぜ！

そう思ってたら謎の音が頭に響いてきた

《我は神だ 面白いゲームに参加させてやるぞ》

ゲーム？と俺は首をかしげる

多分 なんかのお遊びだろう

《転生者同士の争いだ 景品は神の座だ》

神の座・・・だ・・・と？

《あと特典をひとつやるっ》

ニコポにしてくれ！

《・・・それでいいのか？》

それでいいぞ！

《じゃあ行つて貰つぞ》

突如地面に穴が空き俺の意識はなくなつていった

《さっきの と違うな・・・》

何か聞こえた気がしたがあまり聞こえず そのまま意識をうしなつた

《まあ 一人はこんな感じだったな》

《あれ・・・？ニコポ選ぶ奴が多い気が・・・》

《もう一人は・・・》

転生者《二人目》 side

どっだ・・・ニコは・・・

俺が居る場所は真っ白な空間だ  
ちなみに俺はさっき死んだ筈だ

死因は心臓麻痺だ

ここが・・・死後の世界なのか・・・

ん？何かがおかしいぞ・・・口から声が出ていない・・・？

《我は神だ 面白いゲームに参加させてやるぞ》

ゲーム・・・？どういうことだ・・・？俺は死んだんじゃないのか？

《ああ 確かにお前は心臓麻痺で死んだな》

俺が死んだのなら俺はどうしてこんなところにいるんだ！？

《面白いゲームに参加させる為だよ》

そうか・・・二度目の人生が楽しめるんだな・・・

《それはどうかな？》

何っ！？

《面白いゲームとはな 殺し合いだよ 転生者同士の》

何・・・だ・・・と・・・？平凡な日常は送れないのか！？

《まあ・・・ばれなかったらいいと思うぞ・・・多分いつかはばれるが・・・》

そうか・・・だが二度目の人生を楽しめるのならいいか！

《ふむ・・・じゃあ特典は何にする？》

特典？どういうことだ？

《つまりだ 自分を守る力だよ》

じゃあ一方通行のベクトル変換にしてくれ

《・・・言うておくがベクトル変換でもレベル3ぐらいが限界だと思っぞ？》

なん・・・だ・・・と？

《まあ面白くなりそうだ 後もうひとつ 転生者一人殺したら特典を増やしてやる

最大は3つだ 行ってこい》

ふむ・・・と思ったら 地面に突如穴が空き 俺は落ちていった

意識を刈り取られながら

《  
.....  
.....!!  
!!!!!!  
》

神の声が聞こえた気がしたが・・・転生したころには忘れていた

転生者《連続》sideout

**番外編 転生者達の転生前（後書き）**

転生前の転生者達の回でした！

みんな穴が開いて落ちるのは同じだったんだね！

転生者の募集

期限は特にないです

いつでもまじり

名前：

容姿：

年齢：

能力：

魔力：

設定：

デバイス：

これをコピーしたら楽にかけると思いますのでよろしく願います

設定については・・・まあ一種の履歴ですね  
年齢については原作開始時の年齢です  
まあ出してほしいキャラがいたら書いてください！

むう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
どうしてこうなったんだ・・・・・・・・・・・・・・・・

文字数が足りないっ！！！！！！  
はあ・・・・・・・・



第七話 ずれ始めた運命（前書き）

ちよつとずつ原作からずれていきますが・・・どうなるんでしょー  
ねー？

## 第七話 ずれ始めた運命

今俺は、木が薙ぎ倒され30mぐらいのクレーターが出来ている所にいる

ついでにうによつによべたべたした怪物が目の前に居る

どうやって倒そうか……

どうしてこうなったって？知らん

## 回想

巨大な猫だな……原作通り……  
ん？にしても何かがおかしいな……ジェエルシードがもつひとつ、  
猫の下にある気が……

あれ・・・？何か、猫の周りが・・・光り始めて・・・！？

そう思った瞬間 俺は回避行動を取っていた  
何故かと言つと

ジュエルシードが収束し、魔力暴走が起こったからだ・・・イレ  
ギュラーか・・・？

にしても土煙がはれないな・・・とつくにはれててもいい筈何だが・・・！？

何だあの異形の生き物は！？

そつえばなのは達は・・・？ん？木の近くで気絶しているな・・・  
淫獣は・・・どっかに吹っ飛んだのか？

まあいいや、とりあえず安全な場所に運ぼうかな・・・軽いなー

「に・・・しても・・・何故ここでイレギュラーが発生したんだ  
？ジュエルシードは二つもなかつたはずなんだがな・・・  
もしかすると・・・ああ・・・多分そうか・・・転生者か・・・」

今考えてみるとフェイト達も来ていない・・・

これが狙いつてことは・・・隠れていれば来るかな？

どうでもいいんだが あの生き物きもちわりい

触手みたいなのがいっぱいあり黒い悪魔みたいにつるつるして  
八チのハリを30倍程度にしたハリがいっぱいある

「やっぱり気持ちわるいな・・・」

まあ・・・なのはを運んでから考えよう

とりあえず顔を隠して月村家の玄関においとくか・・・俺のジ  
ヤージかけておこう

風邪引いても困るしな

「さあて・・・行きますか」

俺は身体強化魔法で足の強化を行って元の場所に戻る

・・・正直身体強化魔法使わなくてもいいんだけど怪しまれるから  
ね！

いや・・・能力の事 忘れていた訳じゃないんだよ？

「ついた・・・っと」  
ズサーっと

「あれ？やっぱりこれ罠なのかな・・・とりあえず封印しないとな・・・」

「・・・封印の仕方覚えてない」・・・私も度忘れしましたマスタート」

あれ？デバイスも度忘れってあるのか？ないよな？

「神様が何かボケのプログラムを入れてたようですがそれなんですかね？」

ちよっ神よっ何をやっているんだ！

「ヤベエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエ」

絶叫しながら俺は逃げた

その後、誰かが解決したらしいが・・・「やっぱりおにいちゃんはずごいですねー」と言っていたようだ

この情報？シランナ - 誰が情報シラベタンダローウネ？

心当たりが一人しかいないんだが・・・水都おおお お前何や  
つてるうううう！

怪我したらどうするんだあああああああああああ！！！！

ちなみに風呂の中で「バカ神がああああああああああ」と  
叫んでいたのは

家で叫んだのは・・・その日の夜であった

第七話 ずれ始めた運命（後書き）

むじろ。。。。

どろだったたでしようか？

**番外編 転生者達の転生前2（前書き）**

今回は転生者たちの前世を・・・どうぞW



番外編 転生者達の転生前2

俺は神埼才斗だ！

特に言うことはないが

趣味は・・・遊ぶことだ！

まあそれで受験落ちただけだな　ハハハハハハハハ

彼女はいないぜ！・・・何でこのかつこいい俺に惚れなかったんだろっ

《駄目人間・・・・・・・・》

ん？今なんか聞こえたような・・・気のせいか

さあて渋谷らへんでナンパしてくるかあ

ってというのがいつもの日常だったりする

何かナンパするたびに蹴られるんだが・・・照れてるだけだよな！

《ポジティブ最低ヤローめ・・・ああもうこいつゲームに混ぜようそうしよう》

その後、ナンパした相手の彼氏に刺されたそうなの

## 転生者二人目

俺は、いつも病院のベッドで寝ている

やることがないのでいつもテレビを見ている

そんな日が続けていたら先生に「余命6ヶ月です」

と告げられた

ちなみに治療は無理だそうだ 新しい病氣らしい

そんなこんなで1ヶ月たったが・・・親からPCが病院に届いた

手紙には、 ちょっと早い誕生日プレゼントだよ と書かれてあった

泣いた

それからの日 アニメを見ては寝る日が続いた

最近は親が面会に来る日も多くなった

そして最後の日が来た

何かが慌しいと思ひ目を覚ますと

息が苦しい 心臓辺りが痛い 目が開けられない・・・どっぴり  
とだ・・・?と思うと

「先生大変です!」

「何っ!?!?」

という会話が続けられていたが

苦しさが無くなったので・・・死んだのかな・・・と思うと・・・

《ふむ、その苦しさから開放してやるっ》

という声が頭に響き 意識を手放した

**番外編 転生者達の転生前2（後書き）**

どうしてこうなった

前半・・・ひどい

後半・・・シリアス？

## 八話 原作までの回想

やあ 柴崎神治だ

いまさらだが 原作までにあつた事を話そうと思う

### 回想

入学して1ヶ月がたった

とりあえずなのはがアリサ・月村と友達になった

そしてあの神埼とか言うやつ・・・ニコポ持ってるな

事故に見せかけて殺してやってもいいロ・・・」「しんじくん?」

「いつのまにっ!?!?」

なのはがいきなり目の前に居た びびった

「最初から居たよ 聞いてなかったの?」



1年生の授業がつまらないのは変わらない

なんか俺が不良扱いされている・・・何故だ？

ちなみに神埼とか言うやつはモテモテとしかいいようがない

まあなのは・アリサ・月村は・・・ゴミを見るような目で見てるけど

神埼は相変わらず・・・「照れてるんだね？わかってるよ？」とか言っている

なのははきもち悪いと正直に目の前で言ってるのに「照れてるんだよね？わかってるよ？」

の繰り返しだ・・・ポジティブも度が過ぎるとひどいな

俺は一樣IQ140取ってるから授業はしなくてもいいんだよね！

昼飯は同級生と一緒に食うけどな・・・(なのはに連行される)

まあ放課後は・・・そのまま家に帰っている



そこで水都を撫でてよしよーしする  
反応が可愛い ああやばい理性がおさえられ・・・「ジヨギン・・・  
グググイッテクルネネネ」

「お兄ちゃん？熱でもあるの？」

ああ可愛いかわ・・・やばい！理性がもうもたん！

「行ってくるじじじじじじじじ」

「お兄ちゃん・・・やっぱりかっこいいノノノ」

まあこんな感じの毎日だ・・・妹がヤンデレ化しないように気を・・・  
つけられないか・・・

《楽しそうだな、ゲームが始まるまでの束の間の幸せってこんなものなのか》

《そうだな》

空の上で二つの光が光っていた・・・ちなみにそこが心靈スポットになるのは1カ月後の事である

航空会社は大儲けだったらしい・・・

そんなこんなで一年経過……

小学校でも楽しい物は楽しいんだな……

授業は簡単すぎてつまらないが

ちなみに神がこの頃来なくなった……ちょっと寂しい気もする

3ヶ月後 神が戻ってきた やっぱりうつとしい

……そういや神の世界にも部下ってあるのか

いや……部下じゃなくて天使か……どうでもいい

そういえばプールってロリコンにとっては天国だよな！

俺はロリじゃないぞ！妹一筋で何が悪い！

……そういやなんで水都は水色の髪なんだろうか……

親が関係あるんだろうか

《・・・親がミッド・・・いやねはやめておこう 出  
身は自分で調べる》

いきなり神が出てきた 親がミッド・・・どういことだ・  
・？

まあいいや 妹を可愛がりに行こう

いつもどおり理性が吹っ飛んでいったそうなの

回想終了

こんな感じだ

八話 原作までの回想（後書き）

回想です

次回は・・・どじょう

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0037ba/>

---

魔法少女リリカルなのは～妹を守りたいだけの転生者の物語～

2012年1月4日01時46分発行